

「履歴書」及び「教育研究業績書」作成上の留意事項

(中部大学)

I. 「履歴書」について

1. 「生年月日 (年齢)」の欄の年齢については、本学に就任予定時の満年齢を記入してください。
2. 「連絡先」は、書類作成時の、メールアドレス、電話番号等を記入してください。
3. 「国籍」の欄には、外国籍である場合にのみ国名を記入してください。
4. 「学歴」の欄について
 - ① 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴 (大学の別科及び専攻科を含む) を有する場合、すべての学歴 (学位、称号を含む) を記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。
なお、大学院博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。
 - ② 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。(授与された時期によって表記が異なりますので、正確に記入してください。)
 - ③ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、教員等の免許・資格についても記入してください。この場合、登録番号も併記してください。外国における資格にあつては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。
 - ④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
 - ⑤ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。
5. 「職歴」の欄について
 - ① すべての職歴 (自営業、主婦、無職等を含む) について記入するとともに、職名、職位等についても明記してください。
 - ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
 - ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
 - ④ 過去において、文部科学省大学設置・学校法人審議会大学分科会の教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称 (大学院にあつては、「D◎」又は「D合」、「M◎」又は「M合」等の判定結果を含む) を記入してください。また、過去における高等専門学校の教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入してください。
 - ⑤ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。
 - ⑥ 大学院を担当している場合は、修士課程、博士課程における研究指導(◎)、研究指導補助(合) 又は授業担当なのかを明記してください。

6. 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ① 「現在所属している学会」には書類作成時において所属する学会の名称を記入してください。
- ② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。
- ③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

7. 「賞罰」の欄には、国及び公的機関、学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分等を記入してください。

8. 「職務の状況」欄について

- ① 現在における職務の状況について記入してください。
- ② 「職名」については、大学教員の場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名を記入してください。職名がない場合は「-」を記入してください。
- ③ 「授業科目の名称」については、大学教員以外の場合は、職務内容を簡潔に記入してください。

II. 「教育研究業績書」について

1. この書類は、担当授業科目等に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び主要な著書、学術論文等の業績について作成してください。

2. 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」について

- ① 「研究分野」の欄には、科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、分科レベルに該当がない場合は、適宜記入してください。
- ② 専攻分野についての実務等の知識や経験を有する者については、「研究分野」の欄に「〇〇に関する実務」と記入し、「研究内容のキーワード」の欄に職務内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。

3. 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

- ① 「事項」の項には、各区分に関連する教育上の能力や職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。
- ② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
- ③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

④ 「教育上の能力に関する事項」の例

ア. 「1 教育方法の実践例」

- 授業外における学習を促進する取組み、授業内容のWeb上での公開等
- 司法研究所等の教育機関における教育経験

- イ. 「2 作成した教科書、教材」
 - 授業や研修指導等で使用する著書、教材等
- ウ. 「3 教育上の能力に関する大学等の評価」
 - 採用決定の際等における評価内容
 - 各大学における自己点検・評価での評価結果
 - 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果
- エ. 「4 実務の経験を有する者についての特記事項」
 - 大学から受け入れた実習生等に対する指導
 - 日本看護協会等の職能団体の依頼による研修指導
 - 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
 - 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等
- オ. 「5 その他」
 - 大学教育に関する団体等における活動、教育実践に対する表彰等
 - 国家試験問題の作成等
- ⑤ 「職務上の実績に関する事項」
 - ア. 「1 資格・免許」
 - 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、管理栄養士、教員等の取得した免許・資格
 - イ. 「2 特許等」
 - 特許、実用新案等
 - ウ. 「3 実務の経験を有する者についての特記事項」
 - 大学との共同研究
 - 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発の担当実績
 - 各種審議会、行政委員会、企業ADR等の委員
 - 行政機関における調査官等の官職
 - 研究会・ワークショップ等での報告や発表
 - 調査研究、留学、海外事情調査等
 - 上記を裏付ける報告書、手引き書、マニュアル、雑誌等
 - エ. 「4 その他」
 - 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
 - 論文の引用実績等
- 4. 「研究業績等に関する事項」の欄について
 - ① 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表（投稿中を含む。）のものは除外してください。
 - ② 「著書、学術論文等の名称」の項について
 - ア. 研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。
 - イ. 著書については、書名を記入してください。

- ウ. 学術論文については、国際学術雑誌、学会機関紙、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文はその旨を明記してください。
- エ. その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論会にあつては当該テーマを記入してください。
- オ. 査読付きの論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。
- ③ 「単著・共著」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には、「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記してください。
- ④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。
- ⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会の名称」の項について
- ア. 著書については、発行所を記入してください。
- イ. 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。
- ウ. 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。
- ⑥ 「概要」の項について
- ア. 当該著書等の概要を200字程度で記入してください。
- イ. 当該著書等が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人の氏名（下線を付す）を含め著者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名）を当該著書等に記載された順に記入してください。また、本人の担当部分の抽出に困難があるときは、その理由を「(〇〇のため本人担当部分の抽出不可能)」と記入してください。
- ウ. 当該著書等が外国語で著されている場合、著書等名（共著の場合は本人担当部分の章、節、題名も含む）はその外国語で記入するとともに、() 書きで訳文を記入してください。概要は日本語のみで構いません。

以 上